

コロナ禍に負けない！

自分たちだけの卒業式を！



令和4年3月11日(金)第75回御南中学校卒業証書授与式が挙行されました。今年の3年生は入学した年の3月から、初めての全国一斉休校を皮切りに2年、3年とコロナ禍で行事が次々と中止になりました。受験の時もオミクロン株感染拡大の影響で今まで以上に緊張を強いられる異例の受験となりました。

しかし、どんな状況でも希望を失わず限られた制約の中で、自分たちを生きし切ることに全力を注いできた卒業生たち。1日だけの修学旅行を終え、あふれんばかりの笑顔でバスを降りる姿や、3年生パワーがはじけた体育祭のフォークダンスでの姿が思い出されます。何をもって幸せとするのか、その定義は一人一人違うでしょう。でも卒業生が過ごし、乗り越えてきた3年間は確実に一人一人を成長させ、ありふれた日常のかけがえのなさを強く心に刻ませた宝物の時間になったと思います。

「別れのことば」の中で、森上 古今さんは最後に武者小路実篤の「進め、進め」という詩の一部を引用しました。

自分たちは後悔なんてしてられない、
したいことが多すぎる
進め、進め。

こんな歩き方でもいいのか。
いいのだ。

一歩でも 一寸でも、信じる道を
進め、進め。



また、卒業の歌は歌えなかったけれど、卒業生たちは自分たちで「旅立ちの言葉」を作り上げました。

先生方を始め、地域の方々、家族への



感謝の思いを素直な飾らぬ自分たちの言葉で伝えました。今までの卒業式にはなかった演出に心動かされたひとときでした。



河合校長先生「はなむけの言葉」からの抜粋

若いみなさんには、前途洋々たる未来が待っていることでしょう。自分の能力を開発し、新たな技術を身に付け、新たな世界でかけがえのない存在感を発揮するにちがいありません。

それでも、あえて言いますが、必ずしも自分の思いどおりになるとは限りません。コロナ禍はみなさんが経験したことですし、現在の世界情勢もたいへん厳しい局面を迎えています。

大切な家族や生活を突然奪われてしまうという過酷な戦争を日本人は体験しています。広島や長崎には行くことができませんでした。教室で戦争の悲惨さ、平和の尊さ、そして人生のかけがえのなさを学びました。

みなさんの中のある人は、次のように書いています。

「戦争は敵味方なく不幸になり、人の幸せを奪うものだ。生きたいと強く思っている、一瞬にして命が奪われる不条理である。」

私たちは、まあ明日でいいやとかまた今度とか、大切なことを先延ばしにすることがよくあります。しかし、明日という日が必ず来るという保証はどこにもありません。

必要なのは、今この時を精一杯生きること。目の前の課題に如何に向き合い、悔いの残らない行動をどのようにとるのか。様々な困難を力合わせて乗り越えてきた御南中学校のみなさんならできるはずです。

卒業おめでとう！進め、進め！輝かしい未来へ向けて！